

# Ⅱ 令和元年度の 研究開発の内容

## II 令和元年度の研究開発の内容

### 《類型毎の趣旨に応じた取組》

「地域魅力化型」は、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組として、地域における地域ならではの新しい価値の創造に向け、地域をよく知りコミュニティを支える人材育成を行うものであり、本校においては、神奈川県総合計画である「かながわグランドデザイン」における県西地域圏の「災害に強いまちづくり」や、県の個別計画「県西地域活性化プロジェクト」における未病の取組を踏まえ、県政策局とも連携しながら、「未病」「防災」の学びを通じ、高齢者比率4割の山北町の課題解決に取り組む。研究初年度は、対象となる1年生に対し、研究の基本となる山北町の現状理解と課題発見につなげる学習となるよう指導を行った。

### 《教育課程》

1年目は、「総合的な探究の時間（未来探究）」（以下、未来探究）を中心に、2年目における生徒一人ひとりの探究テーマの設定に向けた準備段階と位置付け、PBLを実践するにあたって必要となる基本的スキルを身に付ける取組を行った。

2年目は、学校設定科目「山北」「未病」「地域防災」から生徒が一科目を選択し、専門的な学びを行うとともに、「総合的な探究の時間（未来探究）」と結びつけ、探究テーマの設定及び生徒一人ひとりの探究活動を行う。

### 《地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科横断的な学習とする取組について》

「未来探究」をベースとした地域との協働事業を進めていく中で、教育課程上2学年に位置付けた学校設定科目「山北」「未病」「地域防災」は、全教職員の意識において、それぞれの授業や学校行事で得た学びが教科等の枠で切り離されるものではなく、生徒の中で相互に関連し合いつながっている、という教科横断的な学びの視点をポジティブにするという点で非常に大きな効果をもたらした。指導者が、「探究的な学びとして何ができるようになるか」という視点で教科等相互の連携を図り、関係性を深めながら教育活動を実践した。

生徒の資質・能力を育成するための手立てとして、「未来探究」を中心とした地域に関する教育を推進しているが、未病学習では理科・保健体育・家庭、防災学習では公民・数学・理科等と関連させた指導を行った。

### 《総合的な探究の時間（未来探究）の取組》

- SDGsを探究活動の視点とし、課題の気付きと思考の深まりをねらいとする。
  - ・ 生徒にSDGsを身近なものとして実感させ、探究活動の視点の醸成を図るため、校内にSDGsコーナーの設置、調べ学習の成果の廊下掲示等、学習環境を整備。
- 山北町を知るフィールドワーク（7月～11月）
  - ・ 夏季休業中に「山北町の魅力と課題」についてグループ学習を実施、夏季休業明けにポスターセッションにて発表後、山北町都市農村交流活性化推進協議会の協力の下、竹林整備体験、林業体験、史跡巡検、商店街探訪のコース別にフィールドワークを実施。
- 未病学習について（10月23日～12月12日）
  - ・ アサヒ飲料株式会社・カタパルト株式会社のファシリテートにより、プロジェクト学習「僕らの未病プロジェクト」を展開。「未病を同世代に広報する」というテーマで、県副知事による基調講演、グループワーク、成果発表会を実施。
- 防災学習について（1月9日～2月6日）
  - ・ 山北町職員による台風19号の被害について町内の状況及び災害復旧対応について講演及び、東北の食材を使って東北支援を行う「きっかけ食堂」代表武田氏による被災者支援についての講演を聴き、これらを踏まえて「立体地図を活用するDIG」「防災・減災」「被災者支援」の3グループに分かれ、それぞれの分野でPBLを実施。
- 次年度に向けて、探究的な学びを教科横断的に学習するため、年間指導計画の見直しを行った。具体的には、教科横断的な計画表を作成することで、指導者が視覚的に関連する分野を結びつけることができた。

- ・ 次年度に初開講の学校設定科目「山北」「未病」「地域防災」では、主に「山北」が国語・地理歴史・公民・理科、「未病」が理科・保健体育・家庭、「地域防災」が地理歴史・数学・理科・家庭の単元と関連させた指導を実施。

## 《推進体制》

### ① 探究的な学びのためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・ 今年度は、1学年の総合的な探究の時間の学習をベースに、2学年以降の本格的なPBLの実施に向けた基本的なスキルの習得が目的であったことから、教科横断的な学習活動や生徒一人ひとりの探究活動のフォローなどについては、学年及び教科担任等による限定的な人員での対応となった。今年度の活動における検証、改善点を踏まえ、令和2年度の1・2学年による学習展開にあわせた全職員での対応体制を再構築する予定。今年度の活動における検証、改善点を踏まえ、令和2年度の1・2学年による学習展開にあわせた全職員での対応体制を再構築する。

### ② 研究開発体制

- ・ 1学年教職員対象の検討会議及び連携推進グループと1学年合同のプロジェクト推進会議（週1回程度）を実施（月1回程度カリキュラム開発等専門家が参加）
- ・ 学校運営協議会にて研究開発の方針について承認を得た。
- ・ コンソーシアム連絡会議において、本校との協働のあり方について協議。（12月13日）

#### ④ 外部人材の校内での位置付け

- ・ カリキュラム開発等専門家により、今年度行われた職員研修や教育活動についての指導助言、全体の進行状況の監修を「教科横断的な授業展開計画表」の作成につなげた。来年度は、今年度の生徒の変容を見極め、地域の将来を考えながら学校とカリキュラム開発等専門家との協働による新しいカリキュラムを構築する。
- ・ 地域協働学習実施支援員は、行政・小中学校・町民・企業との調整や探究学習において山北町の現状や課題、歴史等について生徒へ助言を行った。来年度は、地域の要望と学校の指導計画を調整しながら、より地域との連携強化に取り組む。

### ④ 学校長の進捗管理、計画、方法を改善していく仕組み

- ・ 職員を県外先進校視察に派遣し、他校の状況を校内で情報共有し、他校の状況と本校の状況を照らし合わせ、本校で取り組めることを計画に加えることができないかなどを検討した。
- ・ 週1回程度のプロジェクト推進会議における振り返りと方向性の確認を行い、次時の授業の到達度や授業内容の改善に取り組んだ。また、単元ごとにルーブリック評価を行い、生徒の到達度の測定を行った。
- ・ 管理職及び総括教諭（主幹教諭）からなる企画会議で計画の修正を検討し、プロジェクト推進会議へフィードバックした。
- ・ 学校運営協議会や運営指導委員会などからの助言を計画の修正に生かし、連携の方法について再検討をした。

### ⑤ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組

- ・ 「地域防災」におけるドローン活用に向けて、有限会社小田原ドライビングスクールの協力の下、教員14名がドローンに関する法律、操縦等について講習を受講。（11月25日～12月25日）
- ・ ㈱ベネッセコーポレーションによる探究活動に係る教員研修を実施。（1月24日、1月31日）
- ・ 県政策局SDGs推進課との協働により、SDGsに係る取組について県立学校で活用できる教材を作成中。

### ⑥ 運営指導委員会等、指導助言等に関する専門家からの支援

- ・ 運営指導委員として、早稲田大学教職大学院客員教授羽入田眞一氏、山北町教育長石田浩二氏、日本イノベーションネットワーク（協力OECD）事務局長小村俊平氏に委嘱。（7月25日）
- ・ 第1回「本年度の活動及び後期の活動計画について」（11月19日）
- ・ 第2回「本年度の活動及び後期の活動計画について」（1月31日）

※ 学習に当たって、全体と自分とのつながり、チームにどう貢献できるかを意識させ、表彰などにより生徒に光を当てる工夫をすること、様々な学校行事にも一貫性を持たせて探究活動につなげること、探究活動を行う際に進路をつなげること、地域の人を取り込むための一層の工夫が必要であること等、多様な意見をいただいている。

#### 《研究成果報告・事業成果の作成及び検証》

- 令和元年度の取組についての報告書冊子を作成。
- 検証については校内アンケート及び三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社による指定校対象アンケートをもとに行う。

#### 《研究開発成果発表会の実施》

- 探究活動の発表会は2回予定したが、新型コロナウイルスの影響により1回となった。「僕らの未病プロジェクト」成果発表会は、山北町及び県政策局の協力の下に実施した。

#### 《研究開発成果普及》

- 生徒による研究発表
  - ・ 「僕らの未病プロジェクト」成果発表会実施（12月12日）
  - ・ 神奈川県西部8県立高等学校合同での探究学習発表会（3月12日）
    - ※ 新型コロナウイルスの影響により延期、未実施
- 職員による研究発表
  - ・ 企業主催等の「『総合的な探究の時間』の導入・実践を考える会」（11月15日）、「生徒が前向きになるための「学び直し」を考える会」（11月15日）、及び「首都圏学習指導等研究協議会」（11月23日）において、校長及び教諭が取組について発表
- 公開研究授業実施（6月27日）
- 取材（新聞社、進学情報誌等）